

予算	款	項	目	決算書
				530 頁

目名

事業名称
簡易水道事業

1. 概要

目的	各給水区域に飲料水を供給する	対象	各給水区域の市民
事業概要	○簡易水道事業 ①清川簡易水道(旧長迫簡水、旧六種簡水) ・現在給水人口989人 ・年間総配水量92,737立方メートル ②緒方簡易水道(旧馬場簡水、旧知田簡水、旧徳田簡水、旧中野簡水、旧小原簡水、旧朝地専水、旧朝地公民館専水、旧商業集積地給水施設) ・現在給水人口3,187人 ・年間総配水量368,927立方メートル ③大野簡易水道(旧田中簡水) ・現在給水人口1,221人 ・年間総配水量183,936立方メートル ④千歳簡易水道(旧新殿簡水、旧千歳簡水) ・現在給水人口1,896人 ・年間総配水量161,881立方メートル ⑤犬飼簡易水道(旧犬飼簡水、旧長谷簡易水) ・現在給水人口4,001人 ・年間総配水量524,339立方メートル		

臨／経	細事業名称	事業内容（主な経費等）	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	財源内訳				評価
					国・県支出金	市債	その他	一般	
経常	簡易水道特別会計	現在給水人口 (11,294人) 総配水量 (1,331,820m ³) 償還金・利 子・割引料	352,683	325,789	2,421		6,864	316,504	3
計			352,683	325,789	2,421	0	6,864	316,504	

2. 指標設定

成果指標	指標名	安定的に飲料水が提供されている人口割合	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	62%			総合計画／後期基本計画において、基本施策(3-1-2)の目標としているため			
活動指標	指標	a	水質検査	b	漏水、施設修理	c		d
	数値	目標	年12回	目標	随時	目標		目標

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H22	H23	H24
安定的に飲料水が提供されている人口割合	%	60.9 %	61.6 %	62.0 %
		98.2 %	99.4 %	100.0 %

活動指標名	単位	H22	H23	H24
a 水質検査	件	12 件	12 件	12 件
		100.0 %	100.0 %	100.0 %
b 漏水、施設修理	件			
		100.0 %	100.0 %	100.0 %
c		—	—	—
		—	—	—
d		—	—	—
		—	—	—

4. 課題と対応

課題
組合、個人の水道施設があり、加入金や使用料等の経費から加入促進に苦慮している。
対応（改善点等）
加入促進のため施設維持管理面や安全性・安定性を啓発していく。

5. 事業費・・・H22～H24（決算額）、H25（予算現額）

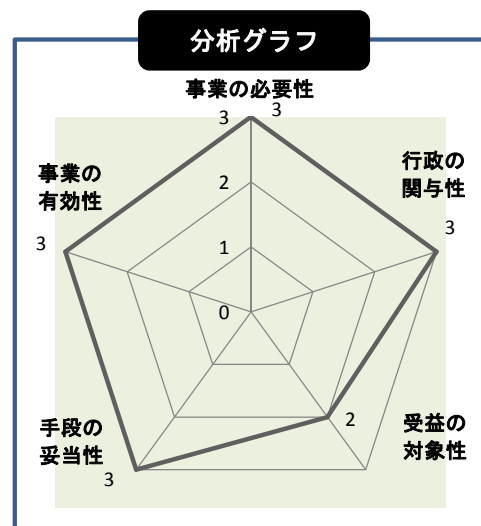
決算額（千円）		H22	H23	H24	H25
		356,615	335,849	325,789	308,486
うち経常経費		192,709	312,282	306,532	296,442
財源内訳	国費			2,421	
	県費				
	市債				
	その他	169,188	1,099	6,864	3,278
	一般財源	187,427	334,750	316,504	305,208
うち経常		187,427	311,847	306,142	296,229
事業費に係る人件費		—	—	—	—
事業費に係る人役		—	—	—	—

6. H26年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
簡易水道事業運営のため

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 水の安全性の確保と安定供給が必要である
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 多くの市民に対し、安全な飲料水が安定的に供給する必要がある
③ 受益の対象性	事業対象の確認	2 未給水区域人口と施設工事との関係で市民全体への事業実施は不可能である
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 水の安全性の確保のための水質検査や安定供給のための漏水、施設修理は適切な手段である
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 目標通りの成果があがってきている



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	引き続き未収金の回収に努めるとともに、適切及び効果的な事業実施を図ること。経営のあり方を検討すること。